自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191200138		
法人名	株式会社 橙果舎		
事業所名	グループホーム めぐみの		
所在地	北海道恵庭市恵み野里美1丁目1番26号		
自己評価作成日	令和3年1月18日	評価結果市町村受理日	令和3年4月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=0191200138-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ		
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2		
訪問調査日	令和3年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各々の入居者が生活の主体者になれるよう、私たちグループホームめぐみのスタッフは、尊厳の保持と自立支援を念頭に、日常の支援に努めております。農家作業が出来る方などに関して、春先から畑作業を開始し、収穫の秋までの作業が出来る環境を提供しています。また、このコロナ禍で地域住民との交流が回りづらい現状が続いておりますが、状況が改善されれば、入居者と一緒にコミュニティカフェを開いたり、夏祭りを開催したり、地域のイベントにも積極的に参加したりと、地域住民の一員として、色々な人と交流できる機会を提供させていただきます。また入居者と一緒に献立を作り、食材を調達に買い物に出かけ、四季折々の食事や食べたい物を食べるという楽しみがあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームめぐみのはJRめぐみの駅に近く、医療機関やドラッグストア、コンビニのある便利な場所にあります。利用者主体のケアを実践するために、利用者のケアに必要な専門知識を学べるよう、専門家を招聘して職員教育を行っています。利用者主体のケア実践のため、会議では職員が意見を交わし、利用者の思いを叶え、身体や認知機能の維持に取り組んでいます。また、コロナ禍で中断していますが、事業所では地域交流に力を入れており、事業所の交流スペースでの認知症カフェの再開を心待ちにしている利用者もいます。職員は利用者が楽しみをもって毎日を過ごせるよう事業所内の行事の充実を図り、利用者の希望を踏まえてドライブなどなどの気分転換を取り入れています。感染防止のため家族の面会が難しい時期が続いておりますが、窓越しの面談や、利用者個別にSNSで家族と写真や動画の共有を行ったり、リモート面談の準備も進めています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

令和2年度 株式会社ソーシャルリサーチ

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については、スタッフがいつも目に付くように玄関や事務所に掲示している。またユニット会議で話し合いをする前に、参加者全員で理念を読み上げることで、理念を意識した話し合いが出来るようにしている	ユニットの入り口や職員休憩室に理念を掲示しています。会議の際には、理念を読み上げ職員が何を大切にケアを実践するかを確認しています。職員は理念に基づいて利用者の個性を大切に生活を支えるためのアイデアを話し合っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、日常的な地域交流ができなくなったが、春先から秋にかけて、農家の畑の手伝いに行ったり、チラシなどを参考に様々なお店で入居者の好きな物を出前していただいている	コロナ禍のため、地域交流を縮小せざるを得ない状況が続いています。事業所の別棟で行っていたサロンも中止になっています。地域のソフトクリーム店では、外出もままならない中の訪問に、食べ放題の提案を受けるなど交流の機会を楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、認知症の人の理解や支援方法を地域の方々に向けた活動ができていない		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、運営推進会議は同法人の事業と一緒に、作成した会議資料をもとに情報の共有を図っている。特に感染予防の取り組みやヒヤリ・ハットなどの検証を行い、相互に意見を述べ、サービスの向上に努めている	外部からの委員や家族代表、利用者が参加して開催していますが今年度は系列事業所と合同で参加者を制限して行っています。感染予防対策や、ヒヤリハット、日常の過ごし方などの報告を行っています。	透明性の高い運営のため、利用者に係る情報を丁寧に報告しています。今後は、家族全員に議事録を送付することにも、ヒヤリハットの報告などは事業所の対策も付け加えるなど、参加していない家族等にも事業所の取り組みを伝える工夫をしていくことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で検討された事業所の実情について記された資料の他に、毎月作成している「めぐみの新聞」を添付し提出することで、日々の暮らしについても伝えている	コロナ禍ということもあり、行政からの連絡はメールでのやり取りが多くなっています。市からはマスクや食品などの支援品の案内や感染症発生時の初動対応などについての助言もありました。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会からユニット会議などで情報を発信し、身体拘束や虐待が行われないうちの自分の行いを振り返り、検討している。	系列の事業所と合同で委員会を組織することで、事例等を多く収集し、対応や防止策を検討しています。職員に対し、利用者の自由な生活を継続するため、毎月の目標の中にも身体拘束防止の視点を活かしています。事例検討とグループワークを繰り返し、意識を高めています。	身体拘束・行動制限検討委員会を組織し、系列グループホームと共に取り組んでいます。職員の入職時に研修を行っていますが、現任職員にも事例検討や会議の際の注意喚起だけでなく、計画的な研修機会を作っていくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を定期的に開催し、実践の中である事例を挙げながら、検討を行い、検討内容を各ユニットに報告し周知を図っている。新人職員には個別に身体拘束についての研修を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市で配布された成年後見制度のパンフレットを基に、必要と思われる利用者・家族に説明、パンフレットの配布を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約の際には、十分な時間をかけ、利用契約書及重要事項説明書の内容を一つ一つ説明し理解の確認をしながら進めてい。改定の際にも、文書をもって説明し、不安や疑問がないかを電話や面会時に確認を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・家族には、意見等がないか、毎月の手紙や面会時に確認をするよう努めている。また、契約時に意見できる外部の機関の紹介を行っている	口頭や、事業所便りなどで、意見を出してもらえよう伝えていきます。面会ができない中、利用者ごとに家族がそれぞれのスマホ端末で利用者の写真やビデオを見られるようにしたり、生活の様子を詳しく伝え、要望を引き出しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期開催とまではいかないが、ユニット会議、全体会議、個人面談を行った中で、職員の意見や提案を発する機会を設けている	職員の個別面談を行い、夜勤の回数なども含め働き方の希望を確認しています。また、家族の状況などによる急なシフト変更にも対応しています。コロナ禍においては、職員の感染への不安な気持ちを受け止め、安心して働けるよう、感染症の専門家の具体的な指導や研修を受ける機会を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金について、サービスの実績を踏まえながら文書にて説明を受け、理解した中で受け取る事ができている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により、感染についての研修会をリモートや少人数で受講はしたが、その他の職員育成においては主にOJTにて職員を力量の向上を図りながら、同時に力量を把握した上で、面談等で互いに力量の向上について確認し合っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナ禍により、開催機会は少なかったが、恵庭市グループホームネットワークの会の中で、互いの現状報告や意見交換を行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者は、可能であれば事前面談などでお話を十分に行うようにし、困っていることや不安に思っていることを確認している。できる限り、今までしていた生活習慣を大切にしたい気持ちから、できる限りの要望については真摯に対応できるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申し込みの段階で、困っていることや不安に思っていることを確認している。入居の際、どのような支援があれば、本人または家族の不安や困っている事が解消されるか、こちらも意見を提案しながら相互に今後の事についての話し合いを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当であったケアマネジャーから、書面または電話などで情報を収集し、本人・家族にとってグループホームのサービスが適しているものかを確認している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あくまでも生活の主体者は入居者本人であって、本人の有する能力し、自立した生活ができるよう、したいことやできることを見極めながら、相互に助け合えるような暮らしができるよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、生活状況を手紙やメール、LINEで本人の状況をお知らせしながら、家族の意見なども伺い、サービスに反映している		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、いろいろと行動制限がある中、病院受診の帰りに、以前住んでいた場所をドライブしたり、電話でお話する機会を作ったり、手紙や年賀状を家族に送るなどの支援を行っている	系列事業所で行っていた認知症サロンに地域の住民が多く参加しており、利用者が訪問し、懐かしいご近所と再開する機会がありましたが、コロナ禍のため中止になっており、再開が待ち望まれています。以前住んでいた地域へのドライブなどに出掛けるなど、感染予防を行いながら支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、食事の席を入れ替えたり、入居者同士で作業を通じて会話や助け合いができるよう、食事作りなどの家事を一緒に行う機会を大切にしている		
22		○関係を断ち切らない取組サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院し退去となり、加療により状態が回復し、グループホームに再度入居できる可能性が有る場合については、入居申し込みをしていただいたり、特別養護老人ホームの入所など、適切だと思われる場所の紹介や申し込みの支援を行っている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望や意向について汲み取るように努め、何かあった場合は応えるように努めている。自分の思いを伝える事が困難な方については、生活歴や家族、ケアマネジャーからの情報を基に検討している	職員は利用者の言葉をよく聞き、利用者の好きな事、楽しいこと、力を発揮できることなどを実現できるように取り組んでいます。また、意向の把握が難しい場合にも家族などと相談し、利用者の人となりを理解したうえで支援を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネジャーから、情報を収集している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人、家族、ケアマネジャーからの事前情報や生活を共にする中でも、過ごし方や有する力などの把握から、ユニット会議や申し送りノート活用し、スタッフ間での情報の共有を図っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの生活に対する意向や心身状態を基に、医師や訪問看護師、家族の意見を取り入れた介護計画を立案している	介護計画は、入居時に家族と利用者の意向を踏まえて暫定計画を策定しています。その後は利用者により3～4か月ごとに見直しをしています。ユニット会議などで職員から利用者の様子を把握し、モニタリングの上、次の計画につなげています。	介護計画作成の都度、利用者や家族の希望は確認していますが、計画への記載にまでは至っていません。利用者主体の職員の丁寧な関わりが計画に反映され、自立支援の質が更に向上するよう職員全員で取り組んでいくことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って、実践・結果の記録を行い、申し送りやユニット会議などで情報の共有化を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍において、医師の往診ができないこともあり、その時の採血など処置を、医師の指示を受けた訪問看護師が事前に行っている。指定居宅療養管理指導で歯科医や薬剤師の訪問、外来リハビリの実施などを行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族からの情報収集で、活用できる地域資源の把握に努めるが、コロナ禍のため、感染予防の観点から地域資源を活用する事ができていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、訪問看護師との医療連携についてや医師の往診体制があることをお話し、かかりつけ医の変更、もしくは継続して今までの医療機関の受診を希望するのかの確認をしている	ほとんどの利用者が訪問診療を利用しています。感染予防のため、その他のかかりつけ医や専門医の受診の際には職員が同行しています。訪問看護も活用し、健康管理と適切なタイミングでの受診を支援しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医との情報交換している書類に関しては、随時FAXで情報提供を行い、定期的訪問時には書面でまとめた情報を看護師提出し、口頭でも補足説明を行い相談を行っている。入居者の体調不良があれば、随時電話にて相談し、必要に応じて油浸に繋げている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の経過については、ご家族様を通じて情報の把握に努め、退院の許可がでた際は、できる限り早期に退院できるよう支援している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	事前に家族との終末期についての確認を行い、状態の変化に応じて、都度、家族との話し合いの場を設け、今後の方向性について話し合いをしている	入居時に、医療連携、重度化に関する指針を説明し、看取りに関して事業所の具体的な支援内容を伝えていきます。終末期には家族を通して本人の意向を汲み取り、支援方法について関係者で話し合いをしています。看取りを行った際には、医師から具体的なケアについて研修を受けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、普通救命講習を受講していたが、コロナ禍のため今年度は実施できていない。急変時のマニュアルは用意している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハザードマップにて、避難場所については確認し合っている。発電機を設置し、地域の一時避難場所としても備えている	火災を想定し、避難訓練を実施しています。日中に、職員2名体制だった場合などを想定し、避難における課題を洗い出しています。耐震性のある建物で発電機も備え地域の避難所としても指定されています。	地域の避難所として、今後も近隣との連携を深めていくことを期待します。また、事業所はハザードマップ上でも自然災害の危険性が少ない地域にありますが、火災以外の想定でも訓練を行い、実効性のあるBCP(事業継続計画)の作成につなげて行くことを期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の保持、自立支援を念頭に、出来る限り本人の意思を尊重し、自尊心を気付けられないような支援に努めている	新入職員に対し、羞恥心への配慮や声の掛け方など、具体的に説明しています。職員は、利用者一人ひとりのその人らしさを受け止め、共に生活するために、配慮すべき事を確認し、業務優先にならないよう注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思を表現されたことに対しては、出来る限り理解に努め、自己決定が実現できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人の生活習慣を理解し、その時その時の本人の思いを汲み取り理解し、自己決定が実現できるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時に本人の身だしなみで気をつけていることなどの理解に努め、入居後も継続して行えるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食事の好き嫌いの把握に努め、食事の内容によっては、個別に対応している。また、個々の嚥下能力に応じて、食事形態の工夫を行っている。食事の準備、後片付けは出来る限り、入居者と一緒に行っている	食べることそのものだけでなく、畑で野菜を育て収穫したり、季節感のある献立や、調理に腕を振るったりとそれぞれの役割を主体的に感じられるようにしています。外食やおやつ作り、職員が寿司職人に扮して寿司をふるまうなど、多彩な場面を提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容や摂取量、水分量の記録を行い、経過を見ながら、水分提供や食事介助を行っている。食事量が少ない方に関しては、必要に応じて栄養補助食品などで補うことをしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	肺炎予防のために、毎食後に口腔ケアが出来る人は行っていたが、出来ない人に関しては本人の能力に応じて、就寝時や起床時に口腔ケアを実施している。知れば洗浄剤についても、歯科医推奨の物を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、出来る限りトイレで排泄できるよう声をかけたり、誘導したりして支援している。オムツの使用が必要な人に関しては、本人が心地良いと思う形状のパットを使用したり、時間帯によって使い分けしている	パットやリハビリパンツなど、利用者に合わせて排泄用品を活用し、快適に生活できるようにしています。トイレでの排泄のため、声掛け誘導を行い、失敗を減らすように取り組んでいます。また、夜間はポータブルトイレを活用するなど、利用者にあった介護方法を検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、食事・水分摂取量の把握に努め、便秘の原因を探り、必要に応じてオリゴ糖を摂っていただいたり、牛乳などを提供している。腹部のマッサージを行い排便を促すこともしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴日や時間は設定せずに、寝る前や午前中にも入浴できる機会があり、本人の入浴習慣やその時の気分や体調を確認しながら入浴をいただいている。	利用者ごとに、2～3日に一度、日付や曜日を決めずに支援しています。入浴剤の使用や、寝る前の入浴などにも対応し、入居前の習慣を継続できるようにしています。また、同性介助にも対応し、利用者の安心や満足につなげています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングで眠たい表情を見せていたり、状態や体調によってベッドでの休息が必要な方など、各々に休息できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合は、申し送りノートなどを活用し、情報共有を図っている。緊急時カードに、最新の薬の表をファイリングし、何かあった時は確認するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に本人・家族・ケアマネジャーから情報を得て趣味や嗜好品、楽しみ事の把握に努め、ホームでも実践できるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたいところの要望があった場合は、本人の道案内で近くを通ったり、季節的なもので景観を楽しんでいただけるようドライブに出かけたりしている	コロナ禍によって、多数の利用者が一緒に出かける外出から、より個別性の高い外出へと変化がありました。制限のある中、ドライブや散歩など、利用者のその時の気持ちや希望を捉え、安全な外出ができるよう工夫しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的にお金を所持したい方がいれば、少額を所持していただいても良いこととしているが、現在は1人50円ほど所持している方1名となっている。預かり金を用意して、事務所で管理し、本人の要望時、または買いたいものがないか伺い、代行して買い物を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方が2名おり、本人の好きな時に電話を使用している。その他の方に関しては、本人の要望時に事務所の電話を使用して頂いている。贈り物が届いたときにお礼の手紙を書いたり、電話ができるよう支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩のときなどで、道端に生えている植物を持ってきては、リビングなどに飾っている。季節に応じたものを掲示したり、設置するようにしている	利用者の個室が広い居間を囲むように配置されており、食卓やソファが置かれたホールが一間続きになっています。トイレには可動式の手すりがあります。居間にはベランダがあり、プランターで野菜を育てるなど、利用者がそれぞれの時間を過ごせるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルの席の他に、みんなでテレビを観られる場所、ベランダの前に外を眺めることができるようにソファの配置をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境が変わっても本人が安心できるような環境をつくるため、使い慣れた家具や好みの物を用意するように努めている	居室には、クローゼットと洗濯ものを干すポールが備え付けになっています。利用者は筆筒や座椅子、テレビなどを持ち込み、それぞれの部屋を設えています。カレンダーや家族の写真などを壁に飾り、自分の部屋と安心して過ごせるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を把握し、安全かつ出来る限り自立して生活できるよう環境整備をしている		